

浜の活力再生プラン

(第2期)

1 地域水産業再生委員会 ID : 1101031

| | |
|------|-------------------|
| 組織名 | 北海道天塩地区地域水産業再生委員会 |
| 代表者名 | 会長 菅井 好文 |

| | |
|-----------|----------------|
| 再生委員会の構成員 | 北るもい漁業協同組合、天塩町 |
| オブザーバー | 北海道留萌振興局 |

| | |
|-----------------------|--|
| 対象となる地域の範囲及び 漁業の種類 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の範囲:天塩町(北るもい漁協天塩支所の範囲) ・ 対象漁業種類 着業者数 |
| | <p>【内水面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ しじみ漁業 28名 ・ わかさぎ漁業 5名 <p>【海面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さけ定置網漁業 13名 ・ 刺し網漁業 14名 ・ ほっき桁網漁業 8名 ・ なまこ桁網漁業 2名 ・ たこ函漁業 13名 ・ 底建網漁業 3名 <p>正組員数 29名</p> |

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

北海道天塩地区地域水産業再生委員会が所管する天塩地区は、北海道北西部の留萌振興局内の北側に位置し、水産業と農林業が基幹産業である。

地方港湾天塩港を漁業基地港とし、平成29年の水揚量は1,048ト、水揚高は約6.5億円であり、ほぼ全漁家が海面漁業と内水面漁業を組み合わせた漁業経営をしている。内水面漁業における主魚種である「シジミ貝」は蝦夷の三絶とまで呼ばれ、漁業者はもとより地域の商工業及び観光における重要な地域資源となっている。しかし、近年は河川及び湖沼の環境変化により資源が減少している。

一方、海面漁業の主力魚種である「秋サケ」は、水揚量の年変動が激しく、安定的な漁業経営が求められている。また、トド等の海獣による深刻な漁業被害は自助努力では限界がきているため被害防止対策を国・北海道へ強く要請し、支援を受けて抑制及び被害状況の把握に努めている。

(2) その他の関連する現状等

未利用資源魚種対策としてスタートした学校給食への食材製造販売は東京都内の小中学校を中心に供給し、その取組みは食育活動に進展し、都内の小中学校への出前授業などの交流に積極的に取り組んだ結果、新規参入は難しいと思われていた学校給食への国産魚の食材提供が少しずつ進み、漁村地域の6次産業化と首都圏の学校での食育が共存しつつある。しかしながら、現在はその需要に供給が追いつかない状況にあり、現状における加工製造設備は貧弱であることから、その施設整備が急がれている。

当地域の内水面漁業は重要な商業・観光及び環境保全を創出する漁業でもあり、河川・湖沼の底質改善や「シジミ貝」の種苗生産放流試験事業の実施等により資源の再生産の活性化と併せ、つくり育てる漁業の実践による資源の増大を目指しているところである。又、近年は、河川・湖沼の富栄養化が進み漁業生産に支障をきたしていることから、地域を上げた取組みによる環境改善が必要である。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

| |
|--|
| |
|--|

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

当地域では水産業が基幹産業であり、育てる漁業、漁場造成、水産加工技術開発、並びに北るもい漁協全体で取組む6次産業化に積極的に取組み、漁業者全員が安心して生活できる漁業を成立させることが目標である。

このような現状とこれまでの取組みを踏まえ、水産資源の安定と増大による生産性の向上、新規販路の開拓や付加価値の向上、漁労経費の削減に係る対策に取組むため「浜の活力再生プラン」を策定し、漁業所得の向上による漁家経営の安定と当地域の活性化を目指す。

① 水産資源の安定と増大による生産性向上

栽培漁業振興協議会や留萌管内さけ・ます増殖事業協会と連携したヒラメ、サケの孵化放流やシジミ貝に影響を及ぼす河川環境の改善に取組むほか、次の取組みにより資源の増大と生産性の向上を図る。

- ・シジミ貝の大型人工種苗生産及び放流試験による効果の検証を実施し陸上種苗生産施設整備やパンケ沼の覆砂による底質改善(漁場造成)、天塩川で捕獲した平均殻長 20mm のシジミ貝のパンケ沼への移殖放流を実施し、漁場の保全とシジミ貝資源の増大を図る。
- ・河川及び湖沼の環境保全による、シジミ貝やワカサギの品質の低下を抑制するための取組みの強化を図る。
- ・サケ親魚の採卵時期の検討により低迷している沿岸漁獲量の増大と安定を図る。

② 新規販路の開拓とブランド化推進、魚価の付加価値向上

- ・ヒラメの活〆や神経〆によるさらなる鮮度保持、品質保持を行う。
- ・カスベ、アンコウの皮むき製品や新たな加工食品の開発及び内水面魚種であるワカサギ製品開発による地域ブランドの確立を図る。
- ・加工処理設備の整備により、学校給食用食材の生産効率化を進めるとともに、上記による新たな水産加工技術の開発と新商品開発を進め、付加価値向上を図る。
- ・北るもい漁協全体で取組む6次産業化の一貫した PR 活動の拡大に努めるとともに、青年部及び女性部は地元町民や児童生徒、及び観光客を対象に漁業体験、出前授業、お魚料理教室等を開催し、漁業への理解と魚食普及の推進を図る。

③ 経費削減と経営改善、後継者対策等

- ・船底清掃や減速航行等の省燃油活動の実施により漁業用燃油経費の削減を図る。
- ・漁船エンジンの省エネ機器への換装や老朽化した漁船の更新を行い、漁労活動の効率化や燃料コスト削減、労働環境の改善を図る。
- ・新しい操業、生産体制への転換あるいは協業化を図り、収益性向上に取組む。
- ・トドなど海獣の駆除や追い払いの強化、来遊情報の把握と適切な情報提供等による漁獲ロスの低減、漁具・漁網被害の低減に取組む。
- ・有害生物の被害対策としての強化刺網導入試験の実施に取組む。
- ・漁業従事者確保のため外国人研修生・技術者の受入れの検討を行う。
- ・海上保安部や警察署と連携した密漁防止のために漁場監視の実施を行う。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

- ・操業隻数、期間等の規制遵守による資源へ与える負荷抑制
(海洋生物資源の保存及び管理に関する法律、北海道海面漁業調整規則)
- ・漁業協同組合における資源管理計画に基づく自主的資源管理措置の実施による資源確保と漁業経費の削減(北海道資源管理協議会)
- ・共同漁業権行使規則に基づく期限の徹底による資源確保(漁業協同組合理事会)

(4) 具体的な取組内容 (毎年ごとに数値目標とともに記載)

1年目(平成31年度) 所得向上 2.3%

以降、以下の取組みについては、毎年、取組みの進捗状況や成果等を踏まえ、段階的に対策範囲を拡大するなど、必要に応じた見直しを行いつつ関係者が一丸となって取組む。

| | |
|--------------|---|
| 漁業収入向上のための取組 | <p>① 水産資源の安定と増大による生産性向上</p> <ul style="list-style-type: none">・シジミ漁業者(28名)と漁協は、現在、主に天塩川での水揚を行っているが、かつての主要な漁場であるパンケ沼のシジミ資源を増大させるべく、シジミ資源量調査を実施するとともに、覆砂事業による底質改善(漁場造成)及びモニタリング調査事業や天塩川で捕獲した平均殻長 20mm のシジミ稚貝のパンケ沼への移殖放流事業、更には積極的な資源添加を目指し大型人工種苗生産放流試験事業を実施しパンケ沼のシジミ資源の増大を図るとともに、内水面漁業に関する法律の定めによる河川、湖沼の環境改善に取り組む。・刺し網漁業者(14名)、底建網漁業者(3名)、さけ定置漁業者(14名)は栽培漁業振興公社や留萌管内さけ・ます増殖事業協会と連携してヒラメ、サケの稚魚放流による資源増大に取り組む。・さけ定置漁業者(14名)と漁協は資源の有効かつ効率的な利用を図るため採卵時期の情報収集に努める。・ほっき桁網漁業者(8名)と漁協は、安定的な資源の利用をすべく、ほっき資源量調査を実施する。・ワカサギ漁業者(5名)と漁協は、河川及び湖沼の産卵場の造成の実施を検討する。 <p>② 新規販路開拓とブランド化推進、魚価の付加価値向上</p> <ul style="list-style-type: none">・漁協天塩支所と全漁業者は、サケ加工品を中心に学校給食用食材の普及に努めており、町内はもとより道内及び東京都内やその周辺都市にも供給しているが、需要に供給が追いつかない状況にあることから、製造処理機器の導入による生産増を図り、全国の小中学校に食材提供の拡大を図るとともに、地域ブランドの知名度の向上、販路拡大に努める。・刺し網漁業者(14名)、底建網漁業者(3名)、さけ定置漁業者(14名)は、買請業者を通じ消費地側からの鮮度保持、品質の向上への要請を踏まえて、ヒラメを対象に活〆や神経〆の取組みを進め付加価値の向上を図 |
|--------------|---|

| | |
|---------------|---|
| | <p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協天塩支所は、新たに地域ブランドとする、カスベ、アンコウ、ワカサギの加工品開発を検討する。 ・漁協と全漁業者は、6次産業化を目指した新商品の開発や天塩支所直売所を活用した販売戦略を定め、多様化する消費者ニーズに対応した積極的な販促活動に努める。 <p>■これらの取組みにより基準年に対し、0.8%の漁業収入向上を目指す。</p> |
| 漁業コスト削減のための取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は、減速航行の徹底や岸壁係留時における機関の停止、定期的な船底清掃及びプロペラ掃除を行うことにより燃油消費量の削減を図る。 ・全漁業者は、機関換装や漁船建造に当たり、競争力強化型機器等導入緊急対策事業、水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業を積極的に活用することにより、漁業経費の削減に取り組む。 ・漁協、刺し網漁業者、底建漁業者、さけ定置漁業者、たこ函漁業者は、トドなどの海獣の駆除や追い払いの強化、沿岸の水域監視によるトド等海生哺乳類の出現動向・行動監視活動を行うことで、海洋生物の保全と漁獲ロスの低減、漁具被害の低減に取り組む。 <p>■これらの取組みにより基準年に対し0.2%の漁業コスト削減を目指す。</p> |
| 活用する支援措置等 | <ul style="list-style-type: none"> ・しじみ貝資源量調査(漁協) ・パンケ沼覆砂事業(町) ・パンケ沼覆砂モニタリング事業(町)(漁協) ・水産多面的機能発揮対策事業(国) ・大型種苗生産放流試験事業(町)(漁協) ・ほっき資源量調査(漁協) ・トド被害対策刺網支援事業(町) ・国産水産物流通促進事業(国) ・漁業経営セーフティネット構築事業(国) ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業(国) ・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業(国) |

2年目（平成32年度）所得向上 4.2%

| | |
|--------------|---|
| 漁業収入向上のための取組 | <p>① 水産資源の安定と増大による生産性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シジミ漁業者(28名)と漁協は、現在、主に天塩川での水揚を行っているが、かつての主要な漁場であるパンケ沼のシジミ資源を増大させるべく、シジミ資源量調査を実施するとともに、覆砂事業による底質改善(漁場造成)及びモニタリング調査事業や天塩川で捕獲した平均殻長20mmのシジミ稚貝のパンケ沼への移殖放流事業、更には積極的な資源添加を目指し大型人工種苗生産放流試験事業の効果の検証を行い、その施設整備の有効性 |
|--------------|---|

| | |
|----------------------|---|
| | <p>の検討を行い、パンケ沼のシジミ資源の増大を図るとともに、内水面漁業に関する法律の定めによる河川、湖沼の環境改善に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 刺し網漁業者(14名)、底建網漁業者(3名)、さけ定置漁業者(14名)は栽培漁業振興公社や留萌管内さけ・ます増殖事業協会と連携してヒラメ、サケの稚魚放流による資源増大に取り組む。 ・ 刺し網漁業者(14名)、底建網漁業者(3名)、さけ定置漁業者(14名)は栽培漁業振興公社や留萌管内さけ・ます増殖事業協会と連携してヒラメ、サケの稚魚放流による資源増大に取り組む。 ・ さけ定置漁業者(14名)と漁協、留萌管内さけ・ます増殖事業協会は資源の有効かつ効率的な利用を図るため採卵時期の検討を行う。 ・ ワカサギ漁業者(5名)と漁協は、河川及び湖沼の産卵適所の状況調査を実施し、資源増大に努める。 <p>② 新規販路開拓とブランド化推進、魚価の付加価値向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 漁協天塩支所と全漁業者は、サケ加工品を中心に学校給食用食材の普及に努める、生産増を図り、全国の小中学校に食材提供の拡大を図るとともに、地域ブランドの知名度の向上、販路拡大に努める。 ・ 刺し網漁業者(14名)、底建網漁業者(3名)、さけ定置漁業者(14名)は、買請業者を通じ消費地側からの鮮度保持、品質の向上への要請を踏まえて、ヒラメを対象に活メや神経メの取組みを進め付加価値の向上を図る。 ・ 漁協天塩支所は、新たに地域ブランドとする、カスベ、アンコウ、ワカサギの加工品開発を行うとともに、販路開拓を行う。 ・ 漁協と全漁業者は、6次産業化を目指した新商品の開発や天塩支所直売所を活用した販売戦略を定め、多様化する消費者ニーズに対応した積極的な販促活動に努める。 <p>■これらの取組みにより基準年に対し、1.6%の漁業収入向上を目指す。</p> |
| <p>漁業コスト削減のための取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 全漁業者は、減速航行の徹底や岸壁係留時における機関の停止、定期的な船底清掃及びプロペラ掃除を行うことにより燃油消費量の削減を図る。 ・ 全漁業者は、機関換装や漁船建造に当たり、競争力強化型機器等導入緊急対策事業、水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業を積極的に活用することにより、漁業経費の削減に取り組む。 ・ 漁協、刺し網漁業者、底建漁業者、さけ定置漁業者、たこ函漁業者は、トドなどの海獣の駆除や追い払いの強化、沿岸の水域監視によるトド等海生哺乳類の出現動向・行動監視活動を行うことで、海洋生物の保全と漁獲ロスの |

| | |
|-----------|--|
| | <p>低減、漁具被害の低減に取り組む。</p> <p>■これらの取組みにより基準年に対し0.2%の漁業コスト削減を目指す。</p> |
| 活用する支援措置等 | <ul style="list-style-type: none"> ・しじみ貝資源量調査(漁協) ・パンケ沼覆砂事業(町) ・パンケ沼覆砂モニタリング事業(町)(漁協) ・水産多面的機能発揮対策事業(国) ・トド被害対策刺網支援事業(町) ・漁業経営セーフティネット構築事業(国) ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業(国) ・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業(国) |

3年目（平成33年度）所得向上 6.2%

| | |
|--------------|---|
| 漁業収入向上のための取組 | <p>① 水産資源の安定と増大による生産性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シジミ漁業者(28名)と漁協は、現在、主に天塩川での水揚を行っているが、かつての主要な漁場であるパンケ沼のシジミ資源を増大させるべく、シジミ資源量調査を実施するとともに、覆砂事業による底質改善(漁場造成)及びモニタリング調査事業や天塩川で捕獲した平均殻長20mmのシジミ稚貝のパンケ沼への移殖放流事業、更には積極的な資源添加を目指し大型人工種苗生産施設の実施設計を行い、パンケ沼のシジミ資源の増大を図るとともに、内水面漁業に関する法律の定めによる河川、湖沼の環境改善に取り組む。 ・さけ定置漁業者(14名)と漁協は資源の有効かつ効率的な利用を図るため採卵時期の情報収集に努める。 ・ほっき桁網漁業者(8名)と漁協は、安定的な資源の利用をすべく、ほっき資源量調査を実施する。 ・ワカサギ漁業者(5名)と漁協は、河川及び湖沼の産卵適所の状況調査を実施し、資源増大に努める。 <p>② 新規販路開拓とブランド化推進、魚価の付加価値向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協天塩支所と全漁業者は、サケ加工品を中心に学校給食用食材の普及に努める、生産増を図り、全国の小中学校に食材提供の拡大を図るとともに、地域ブランドの知名度の向上、販路拡大に努める。 ・刺し網漁業者(14名)、底建網漁業者(3名)、さけ定置漁業者(14名)は、買請業者を通じ消費地側からの鮮度保持、品質の向上への要請を踏まえて、ヒラメを対象に活メや神経メの取組みを進め付加価値の向上を図る。 ・漁協天塩支所は、新たに地域ブランドとする、カスベ、アンコウ、ワカサ |
|--------------|---|

| | |
|---------------|---|
| | <p>ギの加工品開発を行うとともに、販路開拓を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協と全漁業者は、6次産業化を目指した新商品の開発や天塩支所直売所を活用した販売戦略を定め、多様化する消費者ニーズに対応した積極的な販促活動に努める。 <p>■これらの取組みにより基準年に対し、2.4%の漁業収入向上を目指す。</p> |
| 漁業コスト削減のための取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は、減速航行の徹底や岸壁係留時における機関の停止、定期的な船底清掃及びプロペラ掃除を行うことにより燃油消費量の削減を図る。 ・全漁業者は、機関換装や漁船建造に当たり、競争力強化型機器等導入緊急対策事業、水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業を積極的に活用することにより、漁業経費の削減に取り組む。 ・漁協、刺し網漁業者、底建漁業者、さけ定置漁業者、たこ函漁業者は、トドなどの海獣の駆除や追い払いの強化、沿岸の水域監視によるトド等海生哺乳類の出現動向・行動監視活動を行うことで、海洋生物の保全と漁獲ロスの低減、漁具被害の低減に取り組む。 <p>■これらの取組みにより基準年に対し0.2%の漁業コスト削減を目指す。</p> |
| 活用する支援措置等 | <ul style="list-style-type: none"> ・しじみ貝資源量調査(漁協) ・パンケ沼覆砂事業(町) ・パンケ沼覆砂モニタリング事業(町)(漁協) ・水産多面的機能発揮対策事業(国) ・トド被害対策刺網支援事業(町) ・浜の活力交付金(国) ・ほっき資源量調査(漁協) ・漁業経営セーフティネット構築事業(国) ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業(国) ・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業(国) |

4年目（平成34年度）所得向上 8.1%

| | |
|--------------|--|
| 漁業収入向上のための取組 | <p>① 水産資源の安定と増大による生産性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シジミ漁業者(28名)と漁協は、現在、主に天塩川での水揚を行っているが、かつての主要な漁場であるパンケ沼のシジミ資源を増大させるべく、シジミ資源量調査を実施するとともに、覆砂事業による底質改善(漁場造成)及びモニタリング調査事業や天塩川で捕獲した平均殻長20mmのシジミ稚貝のパンケ沼への移殖放流事業、更には積極的な資源添加を目指し大型人工種苗生産施設の施工を行い、パンケ沼のシジミ資源の増大を図るとともに、内水面漁業に関する法律の定めによる河川、湖沼の環境改善に取り組む。 ・刺し網漁業者(14名)、底建網漁業者(3名)、さけ定置漁業者(14名)は栽 |
|--------------|--|

| | |
|----------------------|---|
| | <p>培漁業振興公社や留萌管内さけ・ます増殖事業協会と連携してヒラメ、サケの稚魚放流による資源増大に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さけ定置漁業者(14名)と漁協は資源の有効かつ効率的な利用を図るため採卵時期の実証試験を行う。 ・ワカサギ漁業者(5名)と漁協は、河川及び湖沼の産卵適所の状況調査を実施し、資源増大に努める。 <p>② 新規販路開拓とブランド化推進、魚価の付加価値向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協天塩支所と全漁業者は、サケ加工品を中心に学校給食用食材の普及に努める、生産増を図り、全国の小中学校に食材提供の拡大を図るとともに、地域ブランドの知名度の向上、販路拡大に努める。 ・刺し網漁業者(14名)、底建網漁業者(3名)、さけ定置漁業者(14名)は、買請業者を通じ消費地側からの鮮度保持、品質の向上への要請を踏まえて、ヒラメを対象に活〆や神経〆の取組みを進め付加価値の向上を図る。 ・漁協天塩支所は、新たに地域ブランドとする、カスベ、アンコウ、ワカサギの加工品の販売を実施する。 ・漁協と全漁業者は、6次産業化を目指した新商品の開発や天塩支所直売所を活用した販売戦略を定め、多様化する消費者ニーズに対応した積極的な販促活動に努める。 <p>■これらの取組みにより基準年に対し、3.2%の漁業収入向上を目指す。</p> |
| <p>漁業コスト削減のための取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は、減速航行の徹底や岸壁係留時における機関の停止、定期的な船底清掃及びプロペラ掃除を行うことにより燃油消費量の削減を図る。 ・全漁業者は、機関換装や漁船建造に当たり、競争力強化型機器等導入緊急対策事業、水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業を積極的に活用することにより、漁業経費の削減に取り組む。 ・漁協、刺し網漁業者、底建漁業者、さけ定置漁業者、たこ函漁業者は、トドなどの海獣の駆除や追い払いの強化、沿岸の水域監視によるトド等海生哺乳類の出現動向・行動監視活動を行うことで、海洋生物の保全と漁獲ロスの低減、漁具被害の低減に取り組む。 <p>■これらの取組みにより基準年に対し0.2%の漁業コスト削減を目指す。</p> |
| <p>活用する支援措置等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・しじみ貝資源量調査(漁協) ・パンケ沼覆砂事業(町) ・パンケ沼覆砂モニタリング事業(町)(漁協) ・水産多面的機能発揮対策事業(国) |

| | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・トド被害対策刺網支援事業(町) ・浜の活力交付金(国) ・漁業経営セーフティネット構築事業(国) ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業(国) ・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業(国) |
|--|--|

5年目（平成35年度）所得向上 10.1%

| | |
|---------------------|---|
| <p>漁業収入向上のための取組</p> | <p>① 水産資源の安定と増大による生産性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シジミ漁業者(28名)と漁協は、現在、主に天塩川での水揚を行っているが、かつての主要な漁場であるパンケ沼のシジミ資源を増大させるべく、シジミ資源量調査を実施するとともに、覆砂事業による底質改善(漁場造成)及びモニタリング調査事業や天塩川で捕獲した平均殻長 20mm のシジミ稚貝のパンケ沼への移殖放流事業、更には積極的な資源添加を目指し大型人工種苗の本格生産を行い、パンケ沼のシジミ資源の増大を図るとともに、内水面漁業に関する法律の定めによる河川、湖沼の環境改善に取り組む。 ・刺し網漁業者(14名)、底建網漁業者(3名)、さけ定置漁業者(14名)は栽培漁業振興公社や留萌管内さけ・ます増殖事業協会と連携してヒラメ、サケの稚魚放流による資源増大に取り組む。 ・ほっき桁網漁業者(8名)と漁協は、安定的な資源の利用をすべく、ほっき資源量調査を実施する。 ・さけ定置漁業者(14名)と漁協は資源の有効かつ効率的な利用を図るため、最良時期を選んで採卵を実施する。 ・ワカサギ漁業者(5名)と漁協は、河川及び湖沼の産卵適所の状況調査により産卵に適した漁場の造成に取り組む。 <p>② 新規販路開拓とブランド化推進、魚価の付加価値向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協天塩支所と全漁業者は、サケ加工品を中心に学校給食用食材の普及に努める、生産増を図り、20万食の供給目標を設定し全国の小中学校に食材提供の拡大を図るとともに、地域ブランドの知名度の向上、販路拡大に努める。 ・刺し網漁業者(14名)、底建網漁業者(3名)、さけ定置漁業者(14名)は、買請業者を通じ消費地側からの鮮度保持、品質の向上への要請を踏まえて、ヒラメを対象に活メや神経メの取組みを進め付加価値の向上を図る。 ・漁協天塩支所は、地域ブランドとする、カスベ、アンコウ、ワカサギの加工品の増産により収益性の向上を図る。 |
|---------------------|---|

| | |
|---------------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・漁協と全漁業者は、6次産業化を目指した新商品の開発や天塩支所直売所を活用した販売戦略を定め、多様化する消費者ニーズに対応した積極的な販促活動に努める。 <p>■これらの取組みにより基準年に対し、4.0%の漁業収入向上を目指す。</p> |
| 漁業コスト削減のための取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は、減速航行の徹底や岸壁係留時における機関の停止、定期的な船底清掃及びプロペラ掃除を行うことにより燃油消費量の削減を図る。 ・全漁業者は、機関換装や漁船建造に当たり、競争力強化型機器等導入緊急対策事業、水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業を積極的に活用することにより、漁業経費の削減に取り組む。 ・漁協、刺し網漁業者、底建漁業者、さけ定置漁業者、たこ函漁業者は、トドなどの海獣の駆除や追い払いの強化、沿岸の水域監視によるトド等海生哺乳類の出現動向・行動監視活動を行うことで、海洋生物の保全と漁獲ロスの低減、漁具被害の低減に取り組む。 <p>■これらの取組みにより基準年に対し0.2%の漁業コスト削減を目指す。</p> |
| 活用する支援措置等 | <ul style="list-style-type: none"> ・しじみ貝資源量調査(漁協) ・パンケ沼覆砂事業(町) ・パンケ沼覆砂モニタリング事業(町)(漁協) ・水産多面的機能発揮対策事業(国) ・トド被害対策刺網支援事業(町) ・ほっき資源量調査(漁協) ・漁業経営セーフティネット構築事業(国) ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業(国) ・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業(国) |

(5) 関係機関との連携

天塩町、北るもい漁協本所及び各支所、(社)留萌管内さけ・ます増殖事業協会、及び北海道留萌振興局と連携しながら各種支援制度の活用し、随時、北海道漁連、信漁連、共済組合等の関係機関のアドバイスを受けながら浜の活力再生プランを実施していきます。

4 目標

(1) 所得目標

| | | |
|---------------|-----|--------------|
| 漁業所得の向上 10%以上 | 基準年 | 平成29年度： 漁業所得 |
| | 目標年 | 平成35年度： 漁業所得 |

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

| |
|--|
| |
|--|

(3) 所得目標以外の成果目標

| | | |
|-------|-----|---------|
| かすべ単価 | 基準年 | 平成29年度： |
| | 目標年 | 平成35年度： |

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

| |
|--|
| |
|--|

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

| 事業名 | 事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性 |
|--------------------|---|
| パンケ沼覆砂事業 | パンケ沼の底質改善(漁場造成)により漁場の保全、資源増大を目指す。 |
| パンケ沼覆砂モニタリング事業 | パンケ沼の覆砂箇所におけるシジミ貝の棲息状況を調査し効果的な覆砂事業の基礎資料とする。 |
| 水産多面的機能発揮対策事業 | <ul style="list-style-type: none">・天塩川からパンケ沼への稚貝の移植を行い資源増大を目指す。・水域監視によりトド等海生哺乳類の出現動向・行動監視活動を行い、海洋生物の保全を図る。 |
| 浜の活力交付金 | シジミ大型人工種苗生産施設整備により、シジミ資源の増大を図る。 |
| 国産水産物流通促進事業 | 学校給食食材の需要に対応するため、加工処理器機を導入し目詰まりを解消し、生産の増大を図る。 |
| 漁業経営セーフティネット構築事業 | 燃油高騰などの経済的環境変化による影響を緩和し、漁労経費削減により漁業経営の安定を図る。 |
| 競争力強化型機器等導入緊急対策事業 | 持続可能な収益性の高い操業体制を確立するため、被代替機と比較し生産性の向上や省力・省コスト化に資する漁業用機器等の導入を行う漁業者を支援する。 |
| 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業 | 中核的漁業者の収益向上に必要となる漁船(中古または新造)をリース事業者(漁業団体)が取得し、当該漁業者にリースする支援(リース漁船の取得費等を助成)。 |